

# 景況調査

報告書 NO. 71

平成28年 4月～6月 実績  
平成28年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 平成28年度第1四半期(H28. 4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成28年6月6日～20日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内  
 (2)対象(回答)企業 117[110企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	55 (3)	9 (2)	14 (1)	18	12 (1)	9	117 (7)

※ ( )は団体

5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前期比は△6.8、前期実績(1～3月△6.1)に比較すると0.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前年同期比では△6.8、前期実績(1～3月△12.2)と比較すると5.4ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△15.4ポイント、前期実績(1～3月△14.0)に比較すると1.4ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△15.4、前期実績(1～3月・△11.4)と比較すると4.0ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H28.1～3)見通し**については△6.8、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △6.8)と比較する横バイであった。

「**製造業**」のうち食料品は業況は回復傾向も収益の圧迫を訴える企業が多かった。織物は、多重織りガーゼ素材は受注が順調で稼働率が高かった。ジャカードは深刻な状況。漁網・ロープは、売上全体では前年同期をやや上回る動きが見られた。鉄工のうち工作機械関係はアジア向け輸出低迷の影響で、対前年比では苦戦が続く。自動車関係はトヨタの国内が1万3千台水準で推移した。化学は中国向け出荷が低迷で苦戦。

「**建設業**」は、公共工事の閑散期で苦戦が続いた。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、＜産業資材関連＞中国経済失速・原油下落・円高に加え、産業資材系の荷動きが全般的に悪い。＜インテリア＞毎年3～4月はカーテン業界の繁忙期だが動きが鈍かった。5～7月までは閑散期。動きが非常に少ない。＜寝装関連＞5月後半より温度が上がり、成夏・冷感素材の動きが始まった。昨年並みの動き。＜アパレル＞夏物衣料出荷ピークも今ひとつ。全体的に売上不振。

「**小売業**」は、消費意欲の低迷が長引いており、活気にかける状況。石油等その他小売は、原油価格は低水準で始まりながら、緩やかな値上がり基調となった。

「**サービス業**」のうち旅館関係は4月は好調も、5・6月はやや苦戦。特に日本人観光客が伸び悩んだ。

「**運輸通信業**」貨物輸送は前期比ベースでは売上額は増加するも、港湾関係では完成車輸出が大きく減少した。

**設備投資状況**は、42事業所(56件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は39事業所(54件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、人手不足、競争激化、工場機械店舗の狭小・老朽化が項目別で上位を占めていた。

**当地区において**業種別では、製造業・卸売業・サービス業・運輸通信業等が好調さを見せるも、全体的には一進一退の状況。円高・マイナス金利・中国経済の失速等々のマクロ経済環境の変化も受けてか個人消費の伸び悩みによる停滞感が続く状況。創立70周年を迎える当所としては、アクションプラン推進はもちろん「ビジナビ」等を通じて、地域経済の持続的発展を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

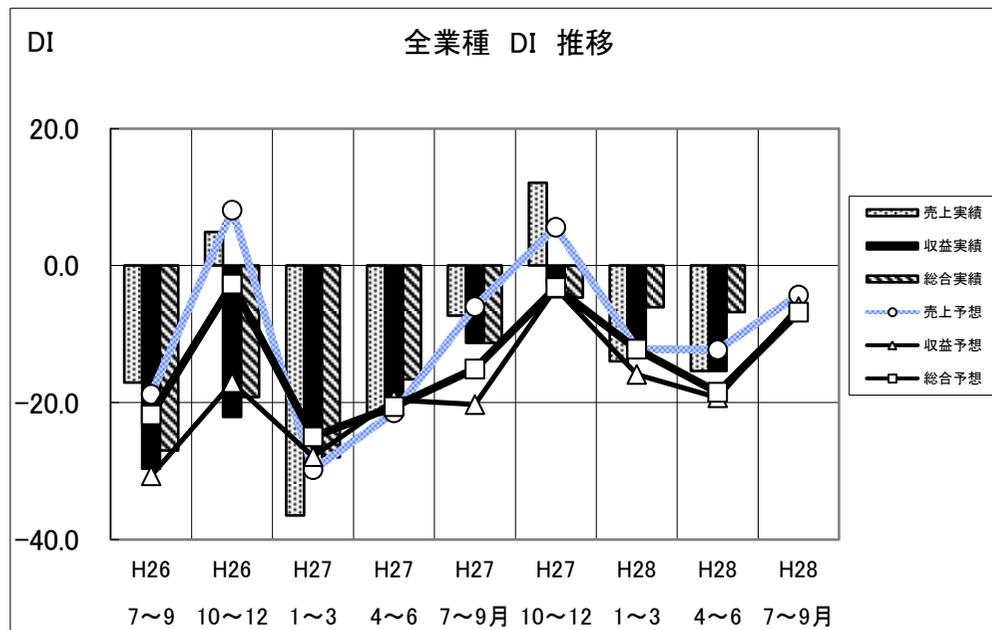
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-14.6	-15.4	-4.3	H27. 4～6月実績	-17.3	-21.8	-21.9	-20.3	-13.5	-16.6	-15.1
②製品・商品在庫	-8.6	-8.6	-10.2	H27. 7～9月実績	-14.5	-7.3	-18.6	-11.3	-12.9	-11.3	-3.2
③資金繰り	0.0	-6.9	-2.6	H27. 10～12月実績	-14.1	12.1	-14.9	-2.8	-13.1	-4.7	-12.2
④採算(収益)	-17.9	-15.4	-6.0	H28. 1～3月実績	-12.2	-14.0	-7.0	-11.4	-12.2	-6.1	-18.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	1.7	7.7	6.0	H28. 4～6月実績	-14.6	-15.4	-17.9	-15.4	-6.8	-6.8	-6.8
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.8	-6.8	-6.8								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H27.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H28.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-17.1	4.9	-36.5	-21.8	-7.3	12.1	-14.0	-15.4	-4.3
収益	-29.7	-22.1	-27.1	-20.3	-11.3	-2.8	-11.4	-15.4	-6.0
総合	-27.0	-19.2	-28.0	-16.6	-11.3	-4.7	-6.1	-6.8	-6.8

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



## 製造業

売上DI値は△12.7、前期実績1～3月期(△6.1)に比して6.6ポイントの下降、収益DI値は△10.9、前期実績1～3月期(△14.3)に比して3.4ポイントの上昇、総合判断DI値は3.7、前期実績1～3月期(△6.1)に比して9.8ポイントの上昇と、売上は悪化するも収益・総合面では上昇傾向が見られた。

向こう3カ月の見通し 売上は水面下。収益は改善。総合は下降も、全体的にほぼ横バイの見通しとなった。

## 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-21.8	-12.7	-7.3
②製品・商品在庫	-5.5	-3.7	-9.0
③資金繰り	-3.6	-9.1	-3.6
④採算(収益)	-23.7	-10.9	3.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.6	14.5	7.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-3.6	3.7	-1.8

## [食料品]

売上は前期比DI値は16.6%と好転した一方で、前年同期比ではDI値0.0%と横バイ。収益では、前期比DI値で0.0%と横バイ。前年同期比ではDI値△16.6%と悪化しており、原材料価格の上昇を訴える企業は多い。総合判断では前期比DI値は50.0%と業況は好転している。

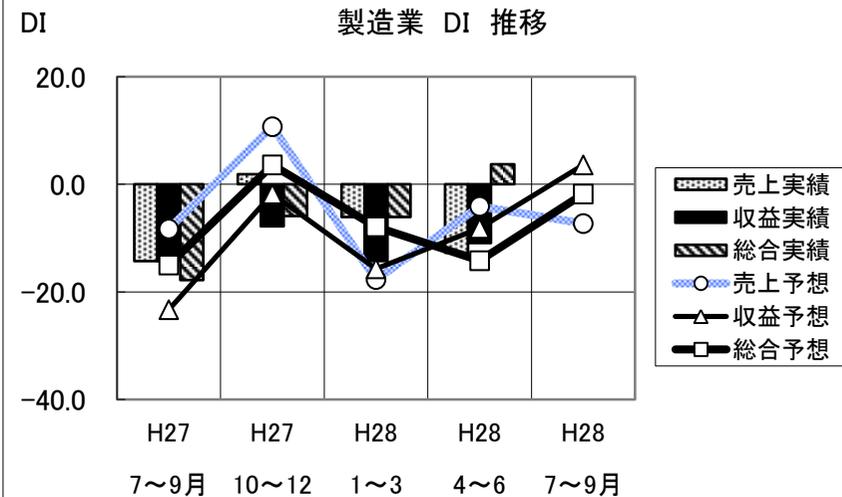
向こう3ヶ月の見通し 売上DI値△33.3%、収益DI値△16.6%と悪化の見込み。総合判断DI値△33.0%と一転して業況は悪化すること予想される。原材料コストの負担感が高まるなど厳しい経営環境下において、いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっており、愛知県産小麦や三河湾産アサリ、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られる。今後も地域性を売りにした商品開発が期待され、当所においてもアグリフードEXPOへの共同出展など、新たな販路開拓の支援に取り組む。

## (食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	16.6	-33.3
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-16.7
③資金繰り	-33.3	-16.7	0.0
④採算(収益)	-16.6	0.0	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	16.6	50.0	-33.3

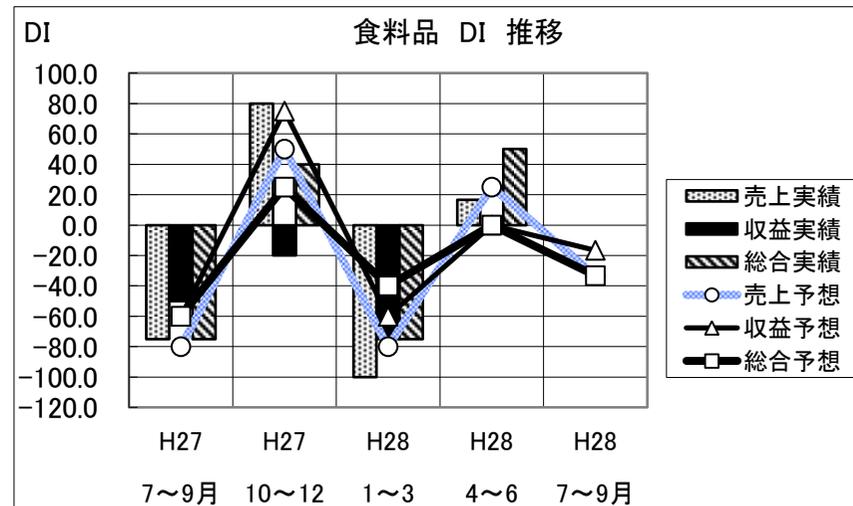
## 製造業 DI 推移



## <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-14.3	1.9	-6.1	-12.7	-7.3
収益	-14.3	-7.8	-14.3	-10.9	3.6
総合	-17.8	-5.9	-6.1	3.7	-1.8

## 食料品 DI 推移



## <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-75.0	80.0	-100.0	16.6	-33.3
収益	-50.0	-20.0	-75.0	0.0	-16.6
総合	-75.0	40.0	-75.0	50.0	-33.3

## 【織物】

寝装関係は、多重織りガーゼが堅調で安定して受注。一方でインテリア向のジャカードカーテンは、深刻な状況が続いており、産業資材も苦戦している状況。

### 向こう3カ月の見通し

寝装関係について、多重織りガーゼについては継続した受注が見込まれる。

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	0.0	0.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-25.0
③資金繰り	0.0	-25.0	0.0
④採算(収益)	25.0	25.0	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0

## 【漁網・ロープ】

売上全体では前年同期をやや上回る動き。分野別の売上では漁業資材は前年同期を上回り、船舶。産業資材はやや下回った。一方で、需要量全体では水産関係は低調な推移という声も上がっている。

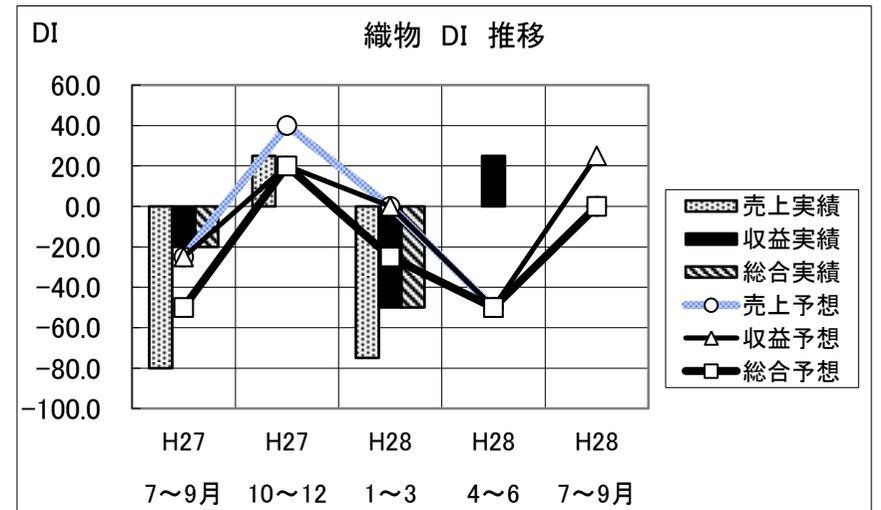
### 向こう3カ月の見通し

円高による影響を懸念、円高・元安が早まると輸入品の増加に繋がる。また、オリンピック等に伴う建設需要の高まりで産業資材への期待が示された。

### (漁網・ロープ)

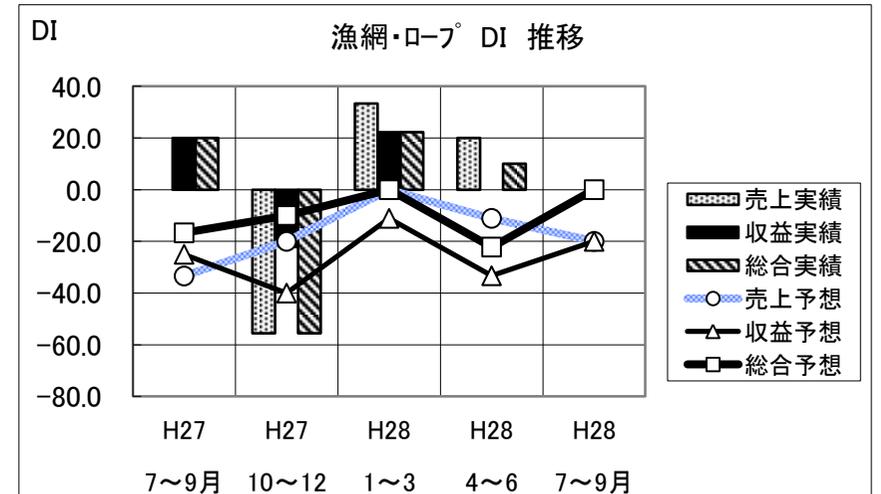
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	30.0	20.0	-20.0
②製品・商品在庫	20.0	20.0	-20.0
③資金繰り	20.0	10.0	-10.0
④採算(収益)	0.0	0.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	0.0	10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	10.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-80.0	25.0	-75.0	0.0	0.0
収益	-20.0	0.0	-50.0	25.0	25.0
総合	-20.0	0.0	-50.0	0.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	-55.6	33.3	20.0	-20.0
収益	20.0	-22.2	22.2	0.0	-20.0
総合	20.0	-55.6	22.2	10.0	0.0

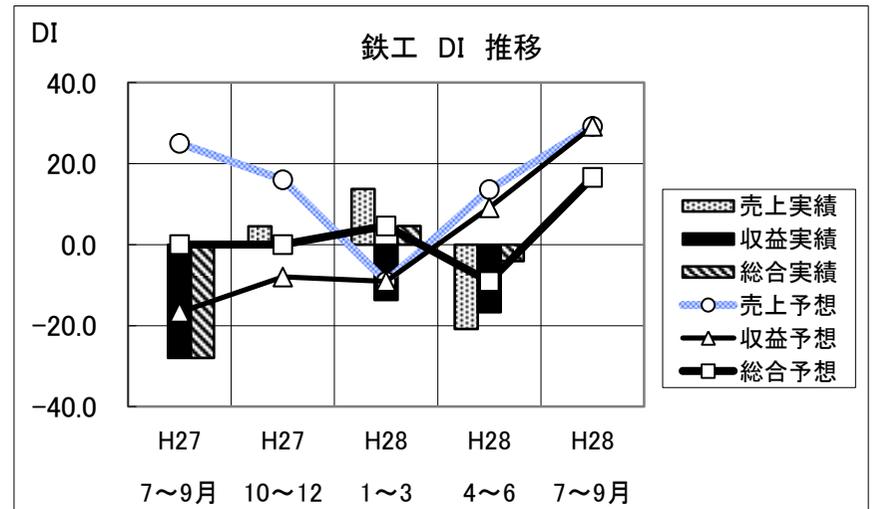
## [鉄工]

<工作機械関係> 国内生産の受注動向は、4月992億円、5月1,043億円、6月は1,090億円と、主にアジア向け受注の低迷により前年同月比で、全体的には2~3割程度の落込みが続く。向こう3カ月の見通し 北米・欧州向けの輸出は横バイだが、中国を中心とするアジア向け受注の低迷が長引くと共に、欧州向けの見込みも不透明感が強まり、内需に期待が寄せられる。

<自動車部品関係> <自動車部品関係> トヨタの国内日当たり生産は、4月期の1万2千台をそこに、1万3千台で推移。新型ハイブリッド車が好調である。向こう3カ月の見通し 熊本地震や関連工場事故に伴う車両生産の遅れがあるも、挽回生産で6~8月は1万3千台超の水準が見込まれている。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月~6月 に比べて	前期比 平成28年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-29.2	-20.8	29.2
②製品・商品在庫	-8.4	-4.2	0.0
③資金繰り	-4.1	-12.5	8.3
④採算(収益)	-37.5	-16.7	29.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	25.0	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	-4.1	16.6



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	4.5	13.7	-20.8	29.2
収益	-28.0	0.0	-13.7	-16.7	29.2
総合	-28.0	0.0	4.6	-4.1	16.6

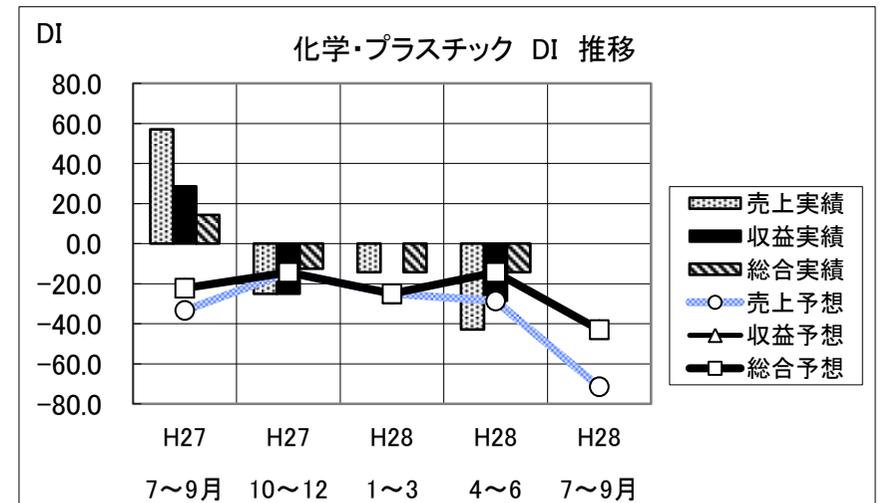
## [化学・プラスチック]

<化学工業> 中国経済の伸び悩みと円高で出荷の伸びが止まり苦戦。向こう3カ月の見通し 原油安による原材料コスト低減を期待する。

(化学部会)

### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月~6月 に比べて	前期比 平成28年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-71.4	-42.8	-71.4
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-14.3
③資金繰り	-14.3	-14.3	-28.6
④採算(収益)	-57.1	-28.6	-42.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	0.0	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.9	-14.3	-42.9



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月
売上	57.1	-25.0	-14.3	-42.8	-71.4
収益	28.6	-25.0	0.0	-28.6	-42.9
総合	14.3	-12.5	-14.3	-14.3	-42.9

## 建設業

売上DI値は△11.1、前期実績1～3月期(0.0)に比して11.1ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績1～3月期△18.2)に比して18.2ポイントの上昇、総合判断DI値は△11.1、前期実績1～3月期(△9.1)に比して2.0ポイントの下降。売上は下降。収益は横バイ。総合は下降となった。公共工事の少ない時期で売上が伸び悩んだ。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに下降する厳しい見通しである。(建設部会)

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-11.1	-22.2
②製品・商品在庫	0.0	0.0	11.1
③資金繰り	0.0	-11.1	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	11.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-11.1	-22.2

## 卸売業

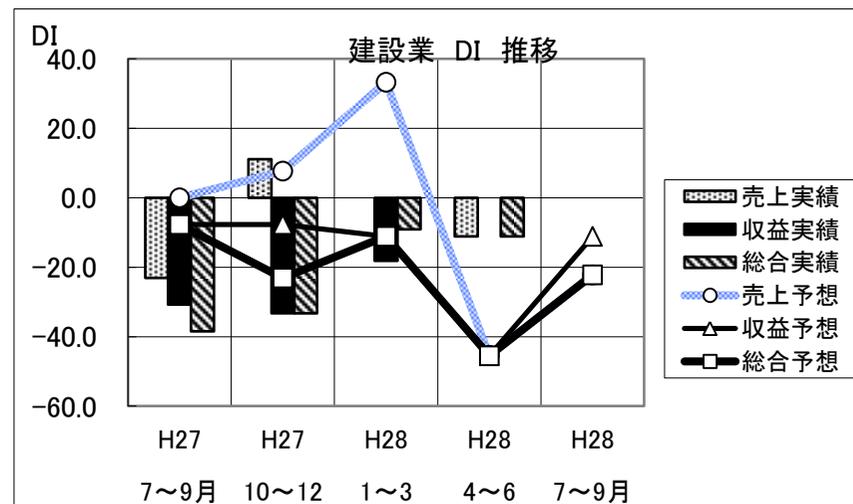
売上DI値は35.7、前期実績1～3月期(△53.8)に比して89.5ポイントの上昇。収益DI値は△35.7、前期実績1～3月期(△15.4)に比して51.1ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績1～3月期(△7.7)に比して7.7ポイントの上昇と、総合は横バイながら売上・収益は上昇傾向となった。

向こう3カ月の見通し 総合は横バイも、売上・収益は上昇傾向が続く見込みである。

## 卸売業

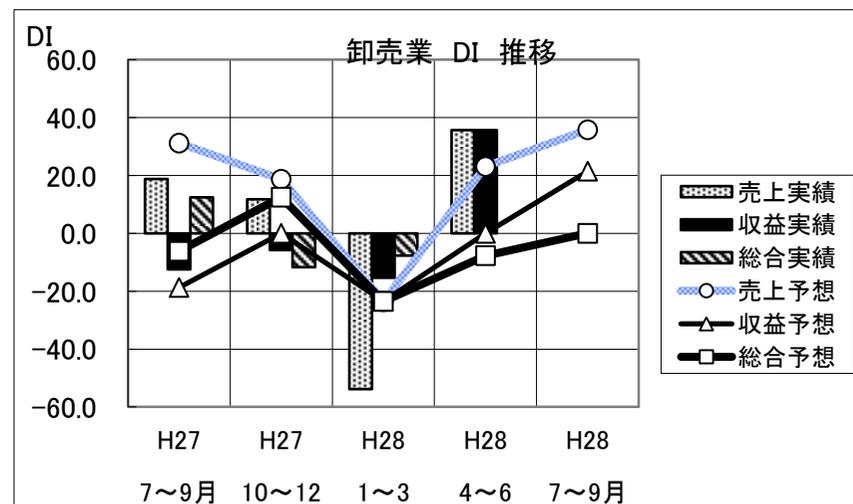
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	7.2	35.7	35.8
②製品・商品在庫	-28.6	-35.7	-42.9
③資金繰り	21.5	21.5	14.3
④採算(収益)	14.3	35.7	21.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-14.3	-7.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	0.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-23.1	11.1	0.0	-11.1	-22.2
収益	-30.8	-33.3	-18.2	0.0	-11.1
総合	-38.5	-33.3	-9.1	-11.1	-22.2



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月
売上	18.8	11.8	-53.8	35.7	35.8
収益	-12.5	-5.8	-15.4	35.7	21.5
総合	12.5	-11.7	-7.7	0.0	0.0

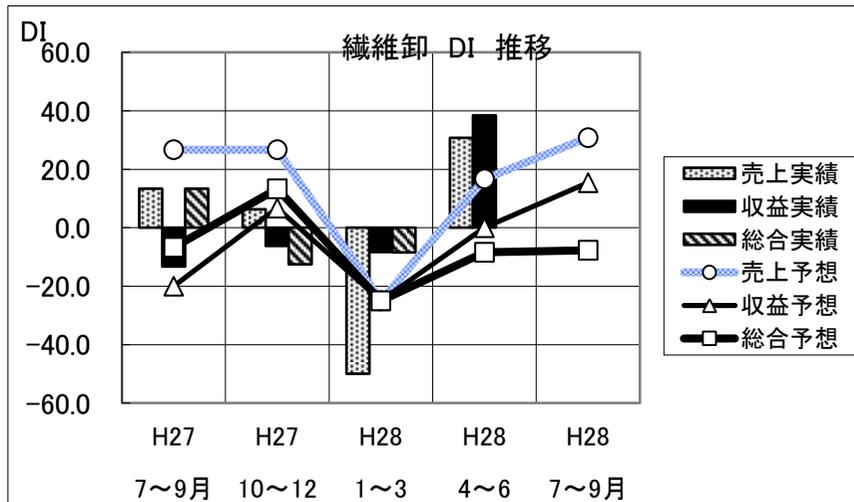
**【繊維卸】**

<産業資材関連> 中国経済失速・原油下落・円高で追い討ちを受ける。また熊本地震の影響でトヨタ工場稼働停止が起り、産業資材系の荷動きが全般的に悪く、また個人消費も低調で活気に欠ける。向こう3カ月の見通し 消費低迷の中、夏物商戦がスタートしていますが、活気にかける。<インテリア> 毎年3~4月はカーテン業界の繁忙期だが動きが鈍かった。5~7月までは閑散期。動きが非常に少ない。向こう3カ月の見通し 秋冬物が開始する8月以降に期待。<寝装関連> 5月後半より温度が上がり、成夏・冷感素材の動きが始まった。昨年並みの動き。高温傾向が続ければ、4~6月は昨年並み。向こう3カ月の見通し 秋冬商品導入は例年9月20日過ぎから。取引先の在庫で異なるが、8月中旬~9月中旬にかけての商材が無く。売上確保に苦労する。<アパレル> 夏物衣料出荷ピークも今ひとつ。全体的に売上不振。商材別では、先染め・プリントも昨対でダウン。逆に衣料用の多重ガーゼは動きが良く、細番手は生産が追いつかない。向こう3カ月の見通し 夏場の天候次第で秋口の受注が決まる。トレンドはニット、合繊なので天然繊維は厳しい状態が続く。(繊維部会)

**(繊維卸)**

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月~6月 に比べて	前期比 平成28年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	7.7	30.7	30.8
②製品・商品在庫	-30.8	-38.5	-38.5
③資金繰り	23.1	23.1	15.4
④採算(収益)	15.4	38.4	15.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-38.5	-23.1	-7.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-15.4	0.0	-7.7



**<業況判断DIの推移>**

	7~9月	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月
売上	13.3	6.3	-50.0	30.7	30.8
収益	-13.3	-6.3	-8.3	38.4	15.4
総合	13.3	-12.5	-8.4	0.0	-7.7

**小売業**

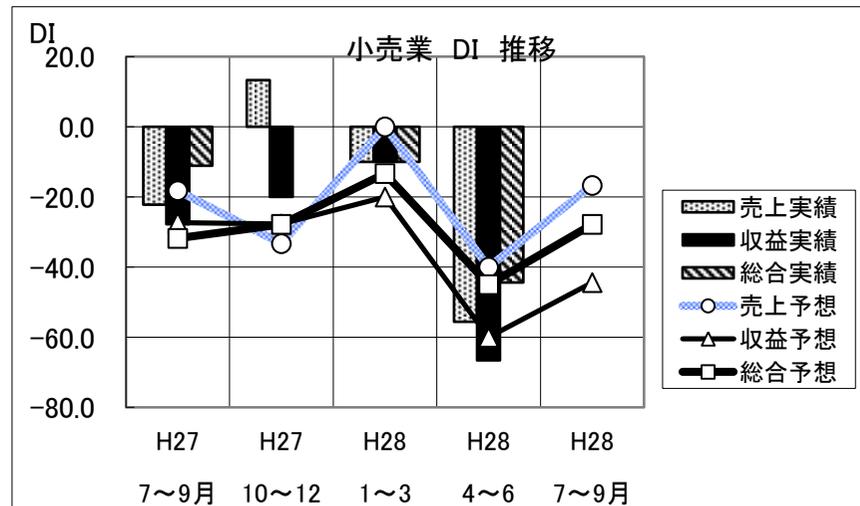
売上DI値は△55.6、前期実績1~3月期(△10.0)に比して45.6ポイントの下降。収益DI値は△66.6前期実績1~3月期(△10.0)に比して56.6ポイントの下降、総合判断DI値は△44.4、前期実績1~3月期(△10.0)に比して34.4ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに大きく下降。消費意欲の低迷が現れた。

向こう3カ月の見通し 為替変動およびゼロ金利政策等の環境変化で消費意欲の冷え込みが不安も、中元戦線に期待。(商業部会)

**小売業**

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月~6月 に比べて	前期比 平成28年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-33.3	-55.6	-16.7
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-11.1
③資金繰り	-22.2	-33.3	-27.8
④採算(収益)	-66.7	-66.6	-44.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	5.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-44.4	-27.8



**<業況判断DIの推移>**

	7~9月	10~12	H28.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-22.2	13.3	-10.0	-55.6	-16.7
収益	-27.8	-20.0	-10.0	-66.6	-44.4
総合	-11.1	0.0	-10.0	-44.4	-27.8

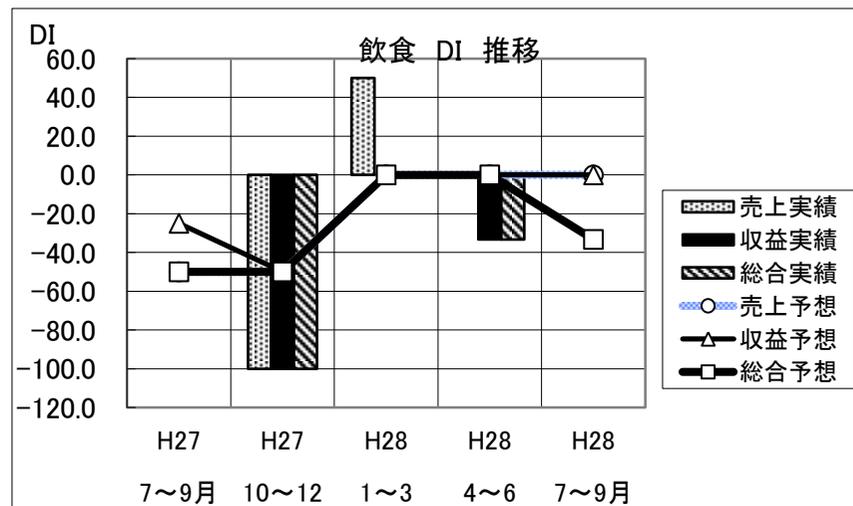
## [飲食]

状況にあまり変化はなく、横バイ状態が続く。ランチは動きあるも、夜の一般客は少な目。団体客も小グループ化している。あじさい祭り・蒲郡まつり等のイベント事での来店は有難い。  
向こう3カ月の見通し 7月～9月に関しても状況的な変化はあまりないと思うが、観光客が最も来訪されるシーズンなので、少なくとも例年なみは期待している。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

### (飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-33.3	-33.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-33.3



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月
売上	0.0	-100.0	50.0	0.0	0.0
収益	0.0	-100.0	0.0	-33.3	0.0
総合	0.0	-100.0	0.0	-33.3	-33.3

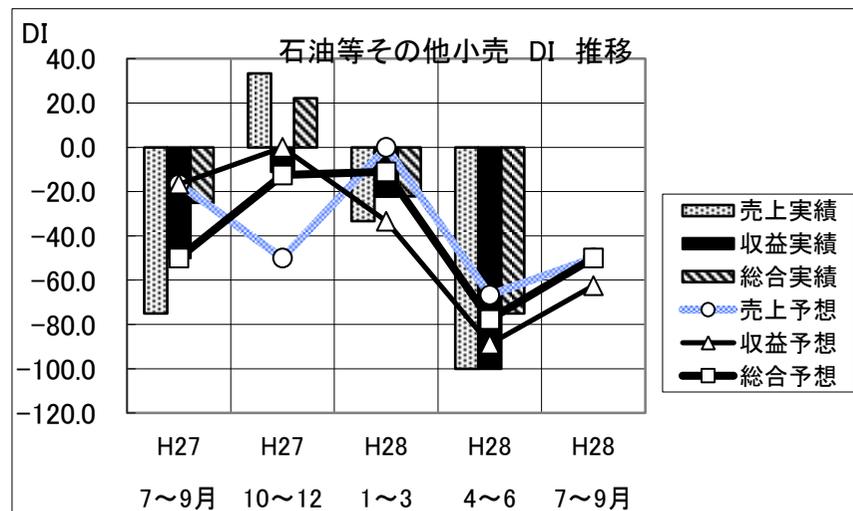
## [石油等その他小売]

WTIは同40ドル台を維持し、その後も、投資家の過度なリスク警戒姿勢の後退を背景にWTIは堅調に推移。5月に入りカナダ・ナイジェリア・リビア等の供給不安が生じると、WTIは同49ドル台と7か月振りの高値に上昇し、5月26日には一時同50ドルをつけた。供給面では、米国シェールオイルは減産基調も、OPECはイランの経済制裁解除の影響もあり増産傾向を維持した  
向こう3カ月の見通し 2016年の世界の需給バランス見通しでは、イランの増産と米シェールオイルの生産減少がほぼ打ち消し合う形となり、供給超過自体は続く見込みも、需要増加に伴い供給超過幅は縮小する見込み 需給バランスの改善で原油価格は回復傾向を辿るとみられ、7～9月のWTIは各四半期の平均で45～52ドル台の推移が予想される。(エネルギー部会)

### (石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-75.0	-100.0	-50.0
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-12.5
③資金繰り	-25.0	-50.0	-37.5
④採算(収益)	-75.0	-100.0	-62.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-75.0	-50.0



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-75.0	33.3	-33.4	-100.0	-50.0
収益	-50.0	-11.1	-22.3	-100.0	-62.5
総合	-25.0	22.2	-22.2	-75.0	-50.0

## サービス業

売上DI値は△50.0、前期実績1～3月期(△30.8)に比して19.2ポイントの下降、収益DI値は△50.0、前期実績1～3月期(△15.4)に比して34.6ポイントの下降、総合判断DI値は△25.0、前期実績1～3月期(△15.4)に比して9.6ポイントの下降と、収益・総合ともに下降が続く状況であった。

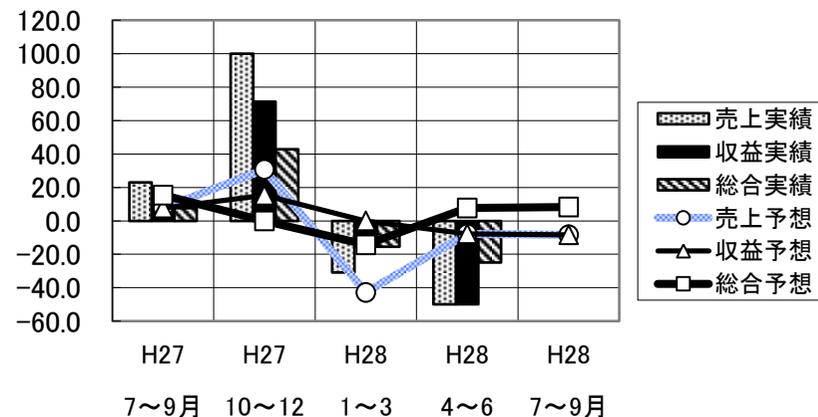
向こう3カ月の見通し 総合は上昇傾向も、売上・収益は下降と、慎重な見通しである。

### サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-8.4	-50.0	-8.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	16.7	0.0	8.4
④採算(収益)	16.7	-50.0	-8.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	-8.4	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-25.0	8.3

### サービス業 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月
売上	23.1	100.0	-30.8	-50.0	-8.3
収益	15.4	71.4	-15.4	-50.0	-8.3
総合	7.7	42.9	-15.4	-25.0	8.3

## 【旅館】

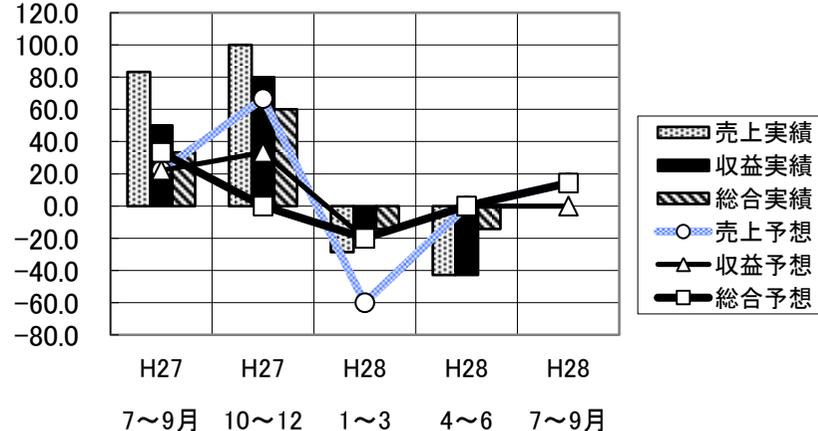
4月の宿泊者数は前年同期を上回るも、5・6月はGWの不振や伊勢志摩サミットの影響もあってか、主に日本人旅行客が伸び悩み前年を下回った。一方でインバウンドは堅調。割合では中国がメインも、台湾・タイ等も増えており、マレーシア・シンガポール・香港などのアジア圏には伸びしろがある。向こう3カ月の見通し インターネットによる「間際予約」が増えているため、夏休み全体の予約状況はあまりよくない。例年並確保のため企業努力を続けたい。また、9月のシルバーウィークは昨年よりカレンダーが悪く、対前年比で苦戦は避けられない。インバウンドは堅調な見込みも、蒲郡での観光消費を増やすため、滞在・観光メニューを充実させるほか、無料WiFiスポットを増やすなどインフラ整備も進めたい。「まちじゅう食べる水族館」等の蒲郡市の魅力を高める取り組みを積極的に推進していきたい。(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-42.8	14.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	14.3	0.0	0.0
④採算(収益)	42.8	-42.8	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	0.0	42.9
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	-14.3	14.3

### 旅館 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月
売上	83.3	100.0	-28.6	-42.8	14.3
収益	50.0	80.0	-14.3	-42.8	0.0
総合	33.3	60.0	-14.3	-14.3	14.3

## 運輸通信業

売上DI値は11.3、前期実績1～3月期(0.0)に比して11.1ポイントの上昇、収益DI値は11.1、前期実績1～3月期(25.0)に比して13.9ポイントの下降、総合判断DI値は22.2、前期実績1～3月期(25.0)に対して2.8ポイントの下降と、上昇幅は縮小するも引き続き改善傾向で推移した。

向こう3カ月の見通し 売上は横バイ、収益・総合は下降の見通しである。

### 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	11.1	11.1	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	11.1	11.1	11.1
④採算(収益)	0.0	11.1	-22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	22.2	22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	22.2	22.2	-11.1

### [旅客・貨物輸送・水運]

#### <貨物輸送>

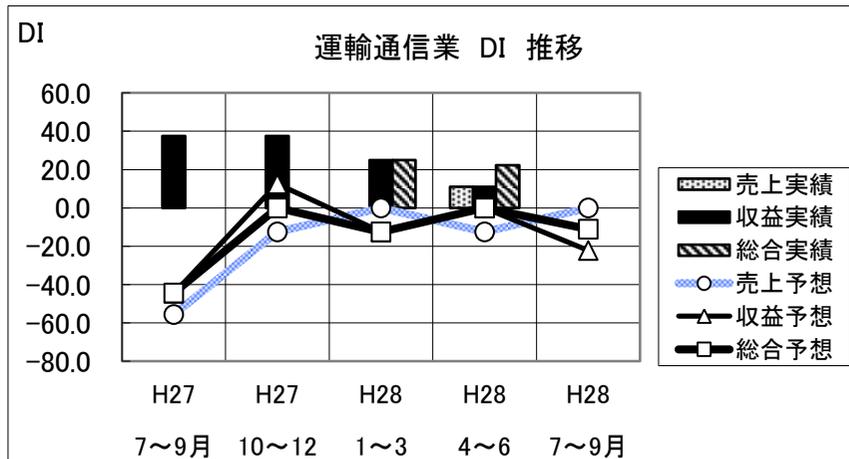
前期比ベースでは売上額は増加するも、港湾関係では完成車輸出が大きく減少した。

向こう3カ月の見通し 貨物は概ね現状維持の見通しも、三菱自動車の業況回復を願う(運輸交通港湾部会)

### (旅客・貨物輸送・水運)

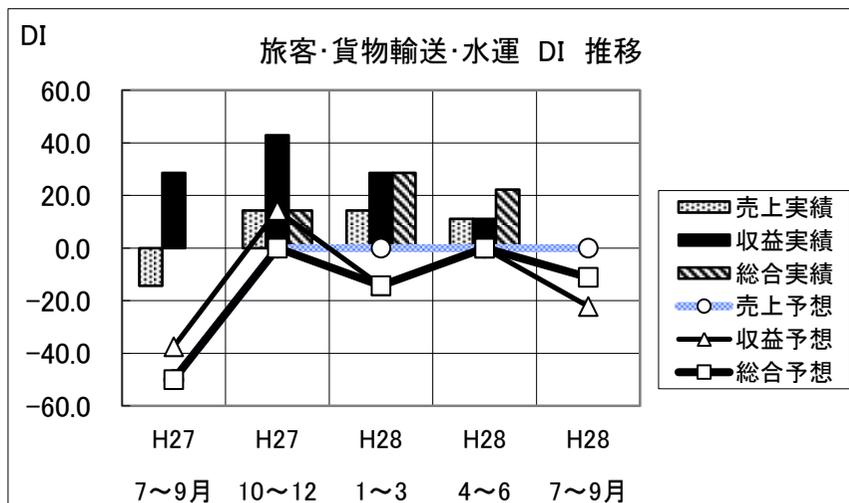
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成27年4月～6月 に比べて	前期比 平成28年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成28年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	11.1	11.1	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	11.1	11.1	11.1
④採算(収益)	0.0	11.1	-22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	22.2	22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	22.2	22.2	-11.1



#### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月
売上	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
収益	37.5	37.5	25.0	11.1	-22.2
総合	0.0	0.0	25.0	22.2	-11.1

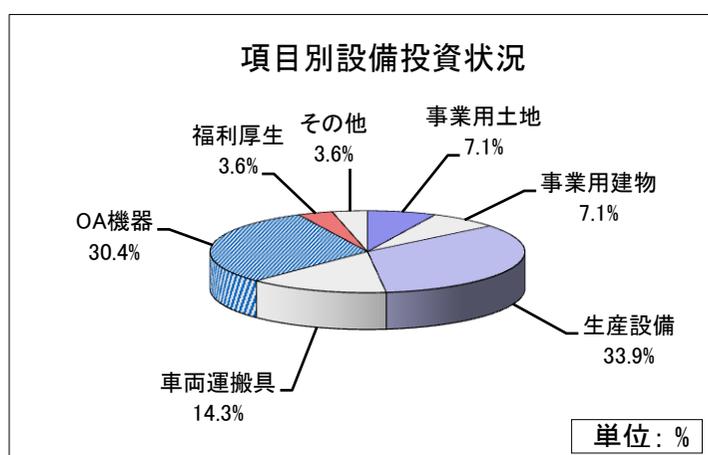
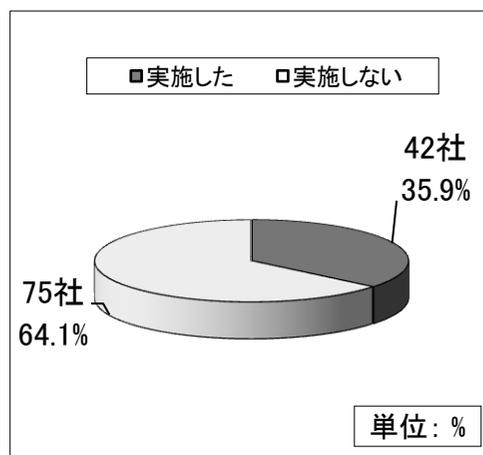


#### <業況判断DIの推移>

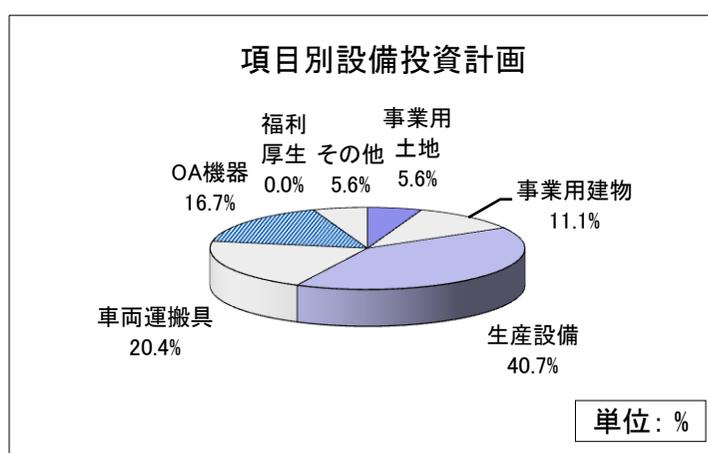
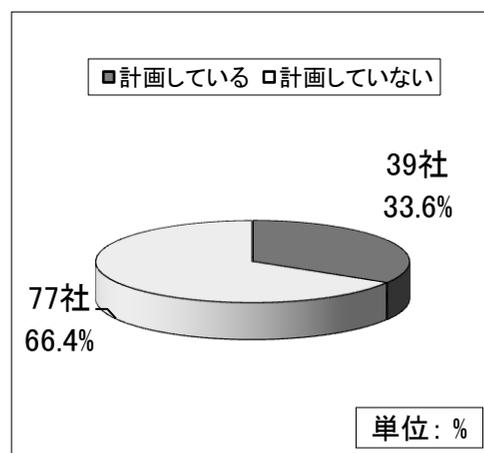
	7～9月	10～12	H28.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-14.3	14.3	14.3	11.1	0.0
収益	28.6	42.9	28.6	11.1	-22.2
総合	0.0	14.3	28.6	22.2	-11.1

## 7. 設備投資動向

＜今期(H28. 4～6月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H28. 7～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	4	3
事業用建物	4	6
生産設備	19	22
車両運搬具	8	11
OA機器	17	9
福利厚生	2	0
その他	2	3
計	56	54

(単位:件)

◎今期(H28.4～6月)、来期(H28.7～9月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H28.4～6月)	42	24	3	2	5	5	3
2. 来期 (H28.7～9月)	39	23	0	2	3	6	5

(単位:事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 117 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	70 59.8%
2	利幅の縮小	51 43.6%
3	人手不足	38 32.5%
4	競争激化	30 25.6%
5	工場機械店舗の狭小・老朽化	26 22.2%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 55 社	売上の停滞・減少 35 社 63.6%	利幅の縮小 26 社 47.3%	工場機械店舗の狭小・老朽化 19 社 34.5%
建設業 9 社	利幅の縮小 6 社 66.7%	売上の停滞・減少 5 社 55.6%	競争激化 3 社 33.3%
卸売業 14 社	売上の停滞・減少 10 社 71.4%	在庫過多 5 社 35.7%	競争激化 4 社 28.6%
小売業 18 社	利幅の縮小 12 社 66.7%	売上の停滞・減少 11 社 61.1%	競争激化 8 社 44.4%
サービス業 12 社	人手不足 7 社 58.3%	売上の停滞・減少 4 社 33.3%	競争激化 4 社 33.3%
運輸通信業 9 社	人手不足 7 社 77.8%	売上の停滞・減少 5 社 55.6%	人件費の増加 3 社 33.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

# 付帯調査(地域データ)

No.71

番号	調査項目	単位	H28. 8報告	基準日	H28. 5報告	基準日	H28. 2報告	基準日	H27. 11報告	基準日	出典
1	人口	人	81,042	H28.6.1	81,177	H28.3.1	81,332	H27.12.1	81,432	H27.10.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		2,392		2,328		2,304		2,260		
2	世帯数	世帯	31,524	H28.6.1	31,402	H28.3.1	31,376	H27.12.1	31,344	H27.10.1	"
	(うち外国人)		1,106		1,073		1,069		1,056		
3	15才～65才生産人口	人	49,120	H28.6.1	49,291	H28.3.1	49,577	H27.12.1	49,763	H27.10.1	"
	(うち外国人)		1,983		1,922		1,903		1,871		
4	建築確認届出件数	件	98	H28.3月～5月	87	H27.12月～H28.211月	108	H27.9月～11月	77	H27.6月～8月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	3.2	H28.3月	3.2	H28.3月	3.3	H27.12月	3.4	H27.9月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	2.7	H28.1月～3月	2.6	H27.10月～12月	2.6	H27.7月～9月	2.7	H27.4月～6月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.36	H28.5月	1.30	H28.3月	1.27	H27.12月	1.23	H27.8月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.84	H28.5月	0.94	H28.2月	0.88	H27.11月	0.70	H27.8月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% (実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.9		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	521.2		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	510.9		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	506.5		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	510.8		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	501.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	498.0		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.8		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	502.7		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	505.3		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	509.1		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,035,598	513.0		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,039,214	489.5		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	775,277	473.9		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	819,020	480.5		▲ 0.5	322.9
2011年度	284	4.5	0.65	6.8	841,246	474.1		▲ 2.5	303.1
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 4.3	893,002	482.4		1.1	323.7
2013年度	265	4.0	0.93	7.9	987,254	489.6		1.5	343.0
2014年1月	238	3.7	1.04	22.6	77,843			1.1	29.2
(平成26年)2月	232	3.6	1.05	16.1	69,689	120.9	1.3	▲ 2.5	33.6
3月	246	3.6	1.07	1.1	69,411			7.2	48.1
4月	254	3.6	1.08	46.1	75,286			▲ 4.6	18.8
5月	242	3.5	1.09	▲ 1.4	67,791	120.8	▲ 2.0	▲ 8.0	20.6
6月	245	3.7	1.10	15.5	75,757			▲ 3.0	26.5
7月	248	3.8	1.10	8.4	72,880			▲ 5.9	28.5
8月	231	3.5	1.10	0.3	73,771	118.1	▲ 0.7	▲ 4.7	20.6
9月	233	3.6	1.09	▲ 1.2	75,882			▲ 5.6	31.5
10月	233	3.5	1.10	▲ 1.6	79,171			▲ 4.0	24.0
11月	219	3.5	1.12	▲ 5.1	78,364	126.9	0.5	▲ 2.5	23.9
12月	210	3.4	1.15	1.9	76,416			▲ 3.4	23.1
2015年1月	231	3.6	1.14	11.2	67,713			▲ 5.1	23.7
(平成27年)2月	226	3.5	1.15	16.5	67,552	123.5	1.3	▲ 3.3	28.8
3月	228	3.4	1.15	9.8	69,887			▲ 9.6	41.8
4月	234	3.3	1.17	▲ 18.7	75,617			1.4	19.8
5月	224	3.3	1.19	0.4	71,720	123.4	▲ 0.4	4.8	20.9
6月	224	3.4	1.19	0.3	88,118			▲ 2.0	27.9
7月	222	3.3	1.21	1.0	78,263			▲ 0.2	28.2
8月	225	3.4	1.23	▲ 5.8	80,255	122.4	0.4	2.9	21.1
9月	227	3.4	1.24	▲ 0.3	77,872			▲ 0.4	30.5
10月	208	3.1	1.24	12.2	77,153			▲ 2.4	24.0
11月	209	3.3	1.25	▲ 0.8	79,697	129.7	▲ 0.4	▲ 2.9	23.9
12月	204	3.3	1.27	0.3	75,452			▲ 4.4	23.9
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	124.7	0.5	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728			▲ 1.1	22.3
6月			1.37		85,953				28.7
7月									28.1
8月									
9月									
10月									
11月									
12月									

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。